

2021 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生情報ビジネス専門学校北九州校の2021年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2022年 2月 1日

校 長 富田 博之

自己点検・評価責任者

校長代行 畠中 康夫

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 5 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 7 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 7 -
	基準 2 学校運営	- 8 -
	基準 3 教育活動	- 9 -
	基準 4 学修成果	- 14 -
	基準 5 学生支援	- 15 -
	基準 6 教育環境	- 16 -
	基準 7 学生募集	- 18 -
	基準 8 財務	- 19 -
	基準 9 法令遵守	- 20 -
	基準 10 内部質保証	- 21 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 22 -
	基準 12 国際交流	- 23 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

■教育理念

1. 深い専門知識と高い技術力を持ち、自己研鑽に励むことのできる人材を育成します。
2. 多様な価値観を受入れ、豊かな感性を伸ばし、自己成長できる人材を育成します。

■教育目標

【コンピュータシステム科】

IT業界でコンピュータエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部で活躍できる人材を育成する。

【システムエンジニア科】

IT業界で高い技術力を持ったエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、高度情報化社会の中で活躍できる人材を育成する。

【ゲームクリエイタ科】

ゲーム開発に必要な各種プログラミング言語などの知識や技術を修得し、ゲーム業界やIT業界で長く活躍できる人材を育成する。

【オフィスビジネス科】

多様化するオフィス環境や医療現場で即戦力として対応できる事務スキルを持った人材となるための専門的技術・知識・検定資格を身に付け、様々なオフィスビジネスシーンで幅広く活躍できる人材を育成する。

【CGデザイン科】

クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を身につけ将来業界人としてプロ意識を持ち活躍できるマインドを持つ人材を育成する。

【CGクリエイタ科】

より高度な目標を見据え、クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を習得し、将来業界人としてプロ意識を持ち活躍できるマインドを持つ人材を育成する。

■3つのポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

「職業を通じて社会に貢献する産業人は私利私欲を捨て「無私」の心を持つものであらねばならない」という麻生塾創立以来の信念に基づき、高度な専門スキルと人間性を身につけ、業界の第一線で活躍する「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する」人材を育成することを目指す。

このような教育理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた方々を積極的に受け入れる。

1. 感謝と思いやりの心を持ち、何事に対しても熱意と情熱をもって取り組むことができる方
2. 社会の一員として、職業を通じて世の中での発展に役立ちたいと考える方
3. 相手の立場や考え方の違いを理解し、その際を肯定的に受け止められる方

(2) カリキュラム・ポリシー

【コンピュータシステム科】

IT分野では、コンピュータのスペシャリストとして業界をリードしていくため、資格や技術力を有する人材が必要となる。コンピュータシステム科ではプログラムの基礎から応用までを幅広く学習、国家資格やベンダー資格を取得し、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部門で活躍できるエンジニアを育成することを目標に、授業科目を開設する。

また企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえた科目開設を実現する。

【システムエンジニア科】

IT分野では、コンピュータのスペシャリストとして業界をリードしていくため、資格や技術力を有する人材が必要となる。システムエンジニア科では情報処理技術を中心に、システム開発について基礎から応用まで幅広く学習し高度な知識や論理的思考を身につけ、国家資格やベンダー資格を取得、高いレベルのシステムエンジニアやプログラマを育成することを目標に、授業科目を開設します。

また企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえた科目開設を実現する。

【ゲームクリエイター科】

ゲーム業界において、開発者に求められることは企業によってさまざまではあるが、大きく3つ挙げることができます。

- ・高いゲーム開発技術力
- ・ゲームの面白さを分析する能力
- ・チーム制作において活躍できる人間力

以上の3つを学生が身につけるために必要な授業科目を開設します。

授業科目の開設にあたっては、日々変化するゲーム業界の技術や開発環境に対応するため、ゲーム業界の開発現場から情報を得ながら検討します。

【オフィスビジネス科】

本学科では、人材育成像に則り、目的意識を持ち積極的に行動し、思慮深く協働の精神を併せ持った人材を育成します。

学生が主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実施します。

(事務・秘書コース&IT ビジネスコース)

- ・実務能力を身につけることを目的とし、アプリケーション実技科目及び知識科目を設置します。
- ・多様化するオフィス環境において事務処理能力だけでなく総合力を持った人材を育成するための教養科目を設置します。
- ・即戦力のみならず豊かな人間性を持ったビジネススペシャリストの人材を育成するためのマナー科目を設置します。
- ・身につけた知識を活かし発展的な思考を身につけるためのプレゼンテーション科目などを設置します。
- ・科目の開設にあたっては、企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、社会ニーズを踏まえた科目開設を実現します。

(医療事務・医療秘書コース)

- ・医療事務員に求められる専門教育と社会人教育で、即戦力となるスキルを習得します。
- ・意欲的な心構え・目標設定・チャレンジ精神について自ら考えるキャリア教育と教養教育により、人間力を高めます。
- ・医療現場の意見と評価を踏まえ、多様な医療機関と幅広い職種から実習先を選び体験する実践的な職業教育を実施します。

【CG デザイン科】

デザイン業界を含むクリエイティブ業界で顧客が求めるデザインができる人材、また企画、提案も含めた総合力を持った人材を要請します。主にグラフィックデザイン、Web デザイン、イラストレーション、CG 映像制作の4分野を学習し、制作に応用するカリキュラムを設置します。

また、企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえたカリキュラムを実現します。

(3) ディプロマ・ポリシー

本校では、教育目標（人材育成像）を踏まえ、以下のような知識・態度・能力を備えた学生に対し、卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を取得し、それを活用する能力
2. 目的意識やチャレンジ精神を持ち、自ら積極的に行動をする能力
3. 協働の精神を備え、社会に貢献する能力

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 職業実践専門課程の教育課程編成委員会、学校関係者委員会を充実させ、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像に沿ったカリキュラム内容の更新、向上を図る。
- ② デジタルに慣れ親しんだ学生の学びのスタイルに対応していくと共に、教育の標準化を図るため、教育のDX化に取り組んでいく。
- ③ 学生に対する学習活動、学校生活、就職活動についてのコロナ禍での支援強化。

2. 取組み状況

- ① 職業実践専門課程の委員会を通じて継続的にカリキュラム内容の更新、向上を図ってはいるものの、各系のカリキュラム内容の向上活動を実施している根拠となる資料が存在しておらず、これまで口頭でのやり取りが中心で正式な会議として実施がなかったが、各系で月に一度を基本として学科会議を実施。必要に応じてカリキュラムについても議題とし、記録を残した。
- ② 2023年度中に100%完了の3か年計画で、「講義」科目のデジタルコンテンツ整備の完了が予定されており、2021年度は常勤教員を中心としてABKCとして具体的に、2021年度(初年度)の目標を30%と定めて、コンテンツ作成を推進した。
- ③ 学生に対する学習活動、学校生活、就職活動について、コロナ禍の状況の中、支援強化に努めた。昨年度より行っているオンラインでの学習環境確保のための学内PC貸出拡大。学校生活では授業料に関わる特別給付金についての学生への迅速な案内と手続き処理を行うなど対応した。さらに、就職活動ではオンラインでの面接練習・履歴書添削などについて前年以上に学生への個別対応が可能となり支援することができた。

3. 総括（成果と課題）

- ① カリキュラム再編時など、各系内の学科会議の実施時の議事録などの記録を通じ、カリキュラムについての検討内容や方針について教員間での周知徹底が図れることから、月に一度の定例会議の実施とその議事録記載を継続する。また、常勤講師に周知徹底されることで、非常勤講師へのフィードバックを効率化し、カリキュラム内容を充実させることが可能となる。
- ② 各校で作成されたデジタルコンテンツや授業での活用方法等を全教員で共有する仕組みを構築。成功ノウハウを共有し、教員のスキルアップを図れるようDX化を推進する。
- ③ 先が読めないコロナ禍であっても「学びを止めない」という環境は最低限必要であり、学生に対する学習活動、学校生活、就職活動について、次年度へ向け継続的に支援強化に努める必要があると考える。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像について明文化され、学校グループのホームページへ掲載されたものを通じ、各教職員から学生・保護者・企業へ周知を図っている。

また学生便覧に掲載し全学生に配布しており、入学直後のオリエンテーションにより周知させている。

昨年度はコロナウイルスの影響で入学直後のオリエンテーションが実施できず、新入生に対する法人の理念について周知が遅れたが、今年度は予定どおりの日程で、かつ対面でのオリエンテーションを実施することができ、法人の理念についてより効果的に学生への周知を行うことができた。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

引き続きこれまでの活動を継続し、在校生への周知徹底を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営できている。これらの周知には校長代行からリーダー、各教職員へと共有している。運営向上のための意思決定等は効率よく実行に移すことのできる仕組みになっている。運営に使用される業務管理システムも、改善活動が継続して行われ、変更の際にはシステムを使用する研修へ全教職員と事務職員で参加している。

今年度は、コンプライアンス体制の強化に加え、人事制度・評価制度を教職員の納得性の高い制度に改定するための地盤固めとして、労働時間管理体制・雇用管理体制の再構築を行った。

【課題】

新型コロナウイルス感染予防対策や働き方改革に伴い、現行制度と社会情勢の間に乖離が見られる部分が出てきている。

【今後の取組み】

学校業務を支援する事務組織の役割分担を明らかにする役割表を前年度制作した。今後も業務の可変や異動等が発生した際に更新を行っていく。

2021年度で、新制度構築の基盤が出来上がってきたため、2022年度からは新しい人事制度・評価制度・給与制度の整理再構築を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A

2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

本校のディプロマポリシーは学生便覧に掲載して教職員と学生に周知をしている。各学科のカリキュラムポリシーや授業の内容を示すコマシラバスは Web サイトで公開されており、詳細内容をインターネット上でだれでも確認することができる。

また連携企業、校長代行、教職員による教育課程編成委員会も実施しており、教育課程を定期的に見直し、向上を図っている。

【課題】

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーについては用意しており特に問題はない。今後はめまぐるしく変化を続ける業界に対応するように、各学科で検討し、必要であれば修正していく。

【今後の取組み】

カリキュラムポリシーに関しては学科ごとの専門性を考慮して、本年度は学科別に用意した。それらに基づき業界の第一線として働くことのできる人材を教育できるよう教育課程を編成していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。教育課程編成委員会などで企業等からご意見をいただき、業界ニーズにあわせた授業を実施するためにカリキュラムの一部を改変し、より充実した授業内容へと改善に努めている。また、カリキュラムの編成体制については、教育目標に添ってカリキュラムの企画立案に取り組んでいる。

授業シラバスについては、授業開始時の担当教員からの配付に加え、学生がいつでも確認できるよう各クラスに全科目分を集約したファイルを設置し、周知を図っている。さらに授業シラバスは学校のホームページでも公開されており、インターネット上で確認することもできる。

前年度はカリキュラム内容に関する打ち合わせを口頭のやり取りでのみ行い、正式な会議の記録が残っていなかったが、本年度は各学科で月に一度を基本として学科会議を実施。必要に応じてカリキュラムについても議題とし記録を残した。

【課題】

非常勤講師の授業の実施記録の記載が無い科目がある。次年度は非常勤講師にも記載を徹底させ、カリキュラムの改善に活かしていく。

【今後の取組み】

今後のカリキュラム再編時は随時更新していく。常勤、非常勤を問わず、コマシラバスの記述を徹底し、大きな差異がでないよう継続的に整備する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S

3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	A
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

教育の評価について教育課程編成委員会（年2回実施）で、外部委員から、卒業生に関する情報や評価を得ている。在校生に対しては、前期・後期ごとに「授業アンケート」「ホームルームクラスアンケート」を実施し、ディプロマポリシーに基づいた授業、クラス運営等に対する教育活動の評価を実施している。

また、卒業年次に関しては「卒業時アンケート」を実施し、在学中の教育全体の満足度を可視化している。

【課題】

前年度は授業アンケートなどの評価結果に対する検証・改善記録が残せていなかったが、本年度からは学科会議で授業アンケートに関して必要に応じて取り上げ、その検証・改善策について議事録へ記録した。

【今後の取組み】

引き続き「授業アンケート」「ホームルームクラスアンケート」「卒業時アンケート」実施による評価結果に対する検証・改善活動を行う。学科ごとの授業内容の検討については継続的に学科会議で討議しその内容を議事録へ残す。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成した内容であり、学内で定められた成績評価基準に従い適切に評価を行っている。シラバス書式が改訂され科目ごとの評価基準がより明確にされた。成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準を規定として定めている。

またそれらについて学生便覧などを通じて明示している。以上の規定に基づき、年度末には卒業判定会議、進級判定会議を実施し卒業・進級判定をおこなっている。

【課題】

本年度もコロナ禍による影響はあったものの成績評価や単位認定に問題は生じていない。

【今後の取組み】

今後コロナ禍の状況が長期化する可能性があるため、そのことも含め次年度に向けカリキュラム体系を改善する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

教員の組織配置については法令に則り、全学科担当科目の専門性を考慮した資格、経験等を参考に採用し、必要とされる資格を所持した教員を配置しており現状問題はない。教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための施策としては、法令に則った資格・要件を備えた教員を確保し、分野ごとに必要な教員体制を整備している。教育力向上のための活動として、各教員の共通分野、専門分野について計画的に学内外で実施される研修へ参加し、報告書を記録し改善のための資料としている。

新型コロナウイルスの影響により外部での研修参加が難しい面もあったが、オンラインにて実施される研修に積極的に参加し改善に努めた。

【課題】

今後も中長期的により適正な人材育成を図っていく必要がある。

【今後の取組み】

外部機関の実施する研修の利用やグループにて実施される研修機会を積極的に活用することで、教職員のブラッシュアップを図り、適切な教育体制の整備を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

学生のキャリアプランに関しては、入学時より教員及び就職担当が計画的に取り組んでいる。学科ごとに国家資格試験や各種検定、コンテストの入選数を年度当初に設定し、共有及びフォルダに適切に保管を行っている。また、教育活動および学生支援の改善を図るために各担当者・学科内にて振り返りを行い、次年度のシラバス作成に活かし、改善活動に努めている。

卒業生の動向調査は、卒業生の来校時の情報提供、元担任からの報告から多くの社会的活躍が伝えられている。定期的に全国の卒業生にアンケートを行い、在籍動向及び評価の把握をおこなっている。退学については、学生が退学を希望してきたとき、またはそれに近い状態になった際（欠席の増加など）に、三者面談を実施し、原因の調査・解決を行っている。

【課題】

十分な情報収集はできているが就職部の負担が多い。より効率・効果的な情報収集の実施と改善に継続的に取り組む必要がある。

【今後の取組み】

業界就職率の向上を目標に引き続き授業内容の改善など取り組みを行っていく。特にシステム系とゲーム系の学科は次年度からはさらに業界就職向けとなったカリキュラムに変更されており、新科目も追加されている。それらに関しては特に注意深く状況を観察していき、より大きな成果を得るよう努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S

4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生が安定した学生生活を送ることができるように、学校全体でサポートする体制を整備している。今年度も、学生に対する学習活動、学校生活、就職活動について、コロナ禍の状況の中、支援強化に努めた。昨年度より行っているオンラインでの学習環境確保のための学内PC貸出拡大。学校生活では授業料に関わる特別給付金についての学生への迅速な案内と手続き処理を行うなど対応した。さらに、就職活動では就職部から独自の就職活動セミナーを実施しており、より学生への支援を強化している。

また、リモート学習の環境構築も進めており、これまで教科書やプリントのみで準備してきた科目はスライドや動画を使った教材を追加で作成し、学生が自宅でいつでもオンラインで学習できる環境を準備している。

【課題】

先が読めないコロナ禍であるが、次年度についても「学びを止めない」という環境を整備、改善する必要がある。

【今後の取組み】

引き続きリモート学習の環境構築、整備を進めるため、科目ごとのリモート用の教材作成を進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S

5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

教育施設・設備については教育上の必要性に対応し、かつ教育運営に支障を生じさせないように、毎年各分野担当者へのヒアリングを実施している。その後精査され必要に応じて整備、維持、管理される。教育機材と備品についても、数量不足や使用不備が発生しないように状況に応じて交換や追加購入を行っている。また図書コーナーに業界誌、就職活動参考図書等を設置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。

【課題】

教育運営に支障を生じさせないように、必要性に対応した機材・備品は整備されているが、それらを証明する台帳などが整備されていない。

【今後の取組み】

継続的に必要性に対応した機材・備品は整備するために、次年度に向け新しいものから台帳などを作成し整備する。教職員より推進委員を決め学内のPC室、教務室等の備品管理台帳の雛形を準備し、台帳の作成作業を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

分野によって異なるが、インターンシップを実施するにあたっては、実施要綱、マニュアルなどが整備され計画的に運用されている。またカリキュラムの一項目としてインターンシップについての科目があり、単位認定が認められている。

コロナウイルスの感染防止のため避難訓練は実施されなかったが、学内の防災対策組織の編成を行っており、設備管理者の一覧表、各種設備の定期点検票、危機管理マニュアルを整備し管理している。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の一環とし、入館時の検温、換気の徹底、教室内の消毒、マスク着用を義務づけるなど感染予防に努めた。

【課題】

コロナ禍で現地でのインターンシップや海外留学も中止され実施はできていない。次年度も状況次第では困難な状況が見込まれる。

【今後の取組み】

インターンシップはオンラインで実施されるものも増加してきており、今後そのような環境の変化に対しても対応していく必要がある。インターンシップや海外留学は外的要因により困難な状況が見込まれるが、継続的に教育環境の維持に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッションポリシーを募集要項にて公表し、適正に募集活動を実施している。選考方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学者選抜を行っている。法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定を行っている。金額変更などの決定事項は議事録に記載し、校納金シートや募集要項へ正確に反映させるとともに関係部署への情報共有を行っている。

学生納付金等については、法人の財務状況などを考慮しながら適切な校納金や入学金の設定を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

適正な募集活動の継続実施を行うため、選考方法、選考基準等についても毎年見直しを図り、適正かつ公平な入学選抜の実施に努めていく。また、法人の財務状況などを考慮しながら適切に入学金、校納金の設定を行っていく。引き続き、妥当な学生納付金となっているか確認に努める。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による分析を必要に応じて行っている。分析の中で重要な差異が生じた場合等には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

専修学校設置基準、福岡県私立専修学校設置認可取扱基準を遵守し学内規定が規定されており、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。また、個人情報、ハラスメント防止、危機管理についての関係法令に基づき規定を定め、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。

前年度はマニュアル更新から職場への反映までのプロセスが確立されていないため危機管理マニュアルの更新が滞る状況が発生していたが、本年度はリスクマネジメント委員に所属している職員が逐次更新するよう確認作業を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

関係法令に関する情報共有の継続と、教職員が定期的に研修会へ参加し、学内へのフィードバックを図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準 10 内部質保証

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営については、自己点検・評価を実施し改善点を洗い出し、要改善項目を中心に改善活動を実施した。学校関係者評価の実施体制については整備されており、会議にて改善のための意見をいただき外部よりの提言として学校運営に反映させている。

自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はホームページにて公表し、インターネット上で公開している。

【課題】

前年度では自己点検評価活動の教職員への周知が不足していると判断し、本年度からは自己点検評価報告書、改善計画・報告書などをメール等で回覧した。またその所在を明らかにするためにサーバー内の書類保存場所について周知するなど、周知活動を行っている。

【今後の取組み】

継続して自己点検・評価活動についての可視化への取組みを行う。教職員への自己点検報告書など関連資料の回覧、所在の明確化を行い周知徹底する。さらに改善活動へと生かす。自己点検・評価活動については各自に回覧し、周知徹底を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====
基準 1 1 社会貢献・地域貢献
=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学校運営に必要と判断した場合積極的に団体へ加盟しており、現在は、北九州市産業経済局企業立地支援課と常に連携し、協議も実施している。高校などに出向いての公開講座の実施、また、行政と連携した北九州高校生イラストコンテストを実施するなど社会的活動、地域貢献活動を行っている。

学生ボランティアは青少年ボランティアステーションから定期的に紹介していただき、学生へ案内している。学生へ案内する際は教務から学生ボランティア担当を 2 名選出し、担当を通して全学科の担任へ通知している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

次年度もコロナ禍では実施が困難な可能性が高い。状況が好転すれば出張授業、来校連携授業なども実施する。実施された際には、第三者にもわかりやすいよう、実施状況について明瞭表示されたものを作成する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====

基準 1 2 国際交流

=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生を受け入れるにあたっての国際交流センターと連携。法令を遵守し、適切に在留手続きを行っている。在籍管理、相談体制については日本人学生とほぼ同様に受け入れ態勢を整備している。

また、在学中の学生対象の海外留学プログラムに対する支援を行っており、学生や保護者に対して説明会を行っている。実際に留学する際には安全管理規定を定め管理体制を整備している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

留学生の受け入れ、在籍管理の組織担当割、留学生とのガイダンス記録表の記載を継続的に行う。また海外留学希望者には引き続き案内とサポートを実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S